

9 環境創造センターについて

(1) 環境創造センター概要

原子力災害からの環境回復を進め、県民が将来にわたり安心して暮らせる環境を創造するための拠点として、三春町に環境創造センター、南相馬市に環境放射線センターを整備し、平成28年7月に全面開所した。

環境創造センターの機能は「モニタリング」、「調査研究」、「情報収集・発信」及び「教育・研修・交流」の4つである。

また、環境創造センターに招致した日本原子力研究開発機構（以下「JAEA」という。）及び国立環境研究所（以下「国環研」という。）と連携・協力して、調査研究等を効果的に推進する。

なお、環境創造センターの機能を補完するため、大玉村及び猪苗代町にそれぞれ附属施設を整備するとともに、旧原子力センター福島支所を環境創造センター福島支所として活用することとした。



(2) 環境創造センター各施設の概要

ア 環境創造センター（三春町）

- 本館、研究棟及び交流棟「コミュニティ福島」で構成されている。
- 交流棟「コミュニティ福島」は、放射線や原子力災害を経験した福島の状態についての学習を目的とした展示室やドームシアター、体験研修スペース、各種会議やイベント等を開催するホール・会議室等を備えている。



(ア) 本館

- 放射性物質・有害物質等の調査分析、モニタリングデータ等の収集・発信、管理、解析・評価、研究ネットワークの構築等を実施。
- 招致機関（JAEA、国環研）と連携し、調査研究等の取組を効率的に推進。

【施設概要】

放射性物質・有害物質等に係る試料前処理室、機器分析室等を備えた施設（延床面積 4,235㎡）

(イ) 研究棟

- 効果的・効率的な除染技術の開発、放射性物質の環境動態の調査研究、廃棄物の処理・処分に関する調査研究等を招致機関（JAEA、国環研）が実施。

【施設概要】

放射性物質の環境動態解明、除染技術開発等を行う研究室、情報解析室、実証試験室等を備えた施設（延床面積 5,626㎡）

(ウ) 交流棟「コミュタン福島」

- ・ 展示室等を活用した放射線等に関する学習活動の支援を実施。
- ・ 環境回復・創造に向けた活動を行う NPO、地域住民等が広く交流を行う場。

【施設概要】

各種会議やイベント等を開催するホール・会議室、展示室、ドームシアター、体験研修スペース等を備えた施設（延床面積 4,632㎡）

1 》 1 》 ふくしまの3.11から

復興に向かうふくしまのあゆみを知ろう！

2011年3月11日金曜日、午後2時46分。大きな揺れと押し寄せた大津波。そこから始まる福島原子力災害との闘い。その記録と記憶を振り返ります。



2 》 2 》 ふくしまの環境のいま

新しいふくしまの創造に向けて、まずは“ふくしまの今”を知ろう！

原子力災害からの復旧・復興、そして未来に向けて、「環境回復」と「環境創造」を進めるふくしま。ふくしまの今のすがた、そして未来へとつながる現在の一步を知ってください。



3 》 3 》 放射線ラボ

目に見えない放射線を身近なものに例えて学んだり、放射線の性質をゲーム感覚で楽しみながら学ぶことができます。

▼放射線見える化ウォール

放射線について学ぼう

福島第一原子力発電所の事故以降、「目に見えない」放射線に関するさまざまな情報が溢れました。5つのラボで、放射線のことを知り、きちんと判断するための情報を見つけてください。



4 》 4 》 環境創造ラボ

原子力に替わる新しいエネルギーやエコについて学ぼう！

“原子力に依存しないふくしま”の実現へ、すでに始まっている取組がここにあります。環境創造をさらに進めるために、「自分でできること」「みんなのできること」を発見してみよう。



5 》 5 》 環境創造シアター

大迫力の映像と音響空間！全球型シアター

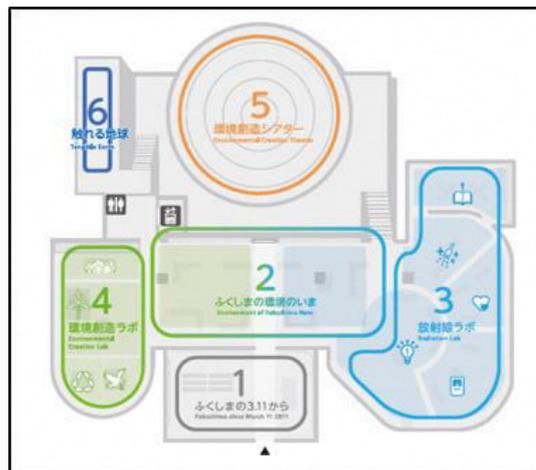
ふくしまの新たなステージへ。放射線ラボ、環境創造ラボで学んだことを振り返り、あらためて、これからのふくしまの環境の未来を考え、創るきっかけとなしてほしい。それが環境創造シアターです。



6 》 6 》 触れる地球

惑星“地球”の鼓動を体感

触れる地球は、地球上の様々なできごとに触れることができるデジタル地球儀です。私たちが生きている惑星“地球”の鼓動を体感し、地球目線で未来を考えてみよう。



交流棟「コミュタン福島」展示室概要

イ 環境放射線センター（南相馬市）

- 環境創造センターの機能のうち、原子力発電所周辺における環境放射能のモニタリング等を行う。
- 原子力発電所周辺のモニタリングにあたり招致機関（JAEA）と連携・協力。



【施設概要】

環境試料に係る前処理室、実験室、測定室、校正施設等を備えた施設（延床面積 3,624㎡）

ウ 野生生物共生センター（大玉村）

- 野生生物における放射性物質の影響に関する調査研究、生物多様性の保全に向けた環境学習、野生鳥獣の救護や保護管理、人と動物の共通感染症に関する調査研究などを行う。



【施設概要】

モニタリングに係る検体の前処理室、研究室、野生動物の飼育スペース、パネル等の展示コーナー、会議室等を備えた施設（延床面積 299㎡）

エ 猪苗代水環境センター（猪苗代町）

- 猪苗代湖・裏磐梯湖沼群の調査研究、環境学習を行うほか、環境保全活動の場を担う。



【施設概要】

研究室兼小会議室、研修室、図書コーナー、ボランティア活動機材保管庫、パネル等の展示コーナー等を備えた施設（延床面積 182㎡）

オ 福島支所（福島市）

- 環境創造センターのモニタリング機能のうち、プルトニウム等の分析等を行う。



【施設概要】

実験室、灰化炉室、計測室等を備えた施設
(延床面積 513㎡ (登記上は2階部分までで478㎡))

(3) 4つの機能の主な取組

ア モニタリング

身近な生活環境や原子力発電所周辺のきめ細かで継続的なモニタリングを実施するとともに、その結果を一元管理し、情報発信する。

また、緊急時には、原子力災害対策指針に基づき、モニタリングを統括する国との連携の下、より広範囲な事態の変化に対応するため、緊急時のモニタリング体制を整え、緊急時の対応に当たる。

イ 調査研究

放射性物質に汚染された地域の環境回復・創造のためには、汚染状況や放射性物質の動態の把握、汚染地域や施設に応じた除染等の処置、その結果の評価、除去土壌及び汚染廃棄物の減容化・保管・処理・処分・再利用といった一連の措置を的確に実施するとともに、変化した生物相・生態系の回復などを進めていく必要がある。

さらに、県民が将来にわたり安心して暮らせる美しく豊かな環境を創造するため、循環型社会の構築や、東日本大震災の教訓を生かした災害に強い社会の構築、環境保全対策等を進め、美しいふくしまの創造を進めていく必要がある。

このため、関連する調査研究を優先度に応じて計画的、体系的に進め、適時・的確にその成果を県や国等が実施する施策等に活用していく。

ウ 情報収集・発信

各種の調査研究成果やモニタリング結果を収集整理し、県民等が分かりやすい形で利用できるように情報発信体制の整備を進める必要がある。

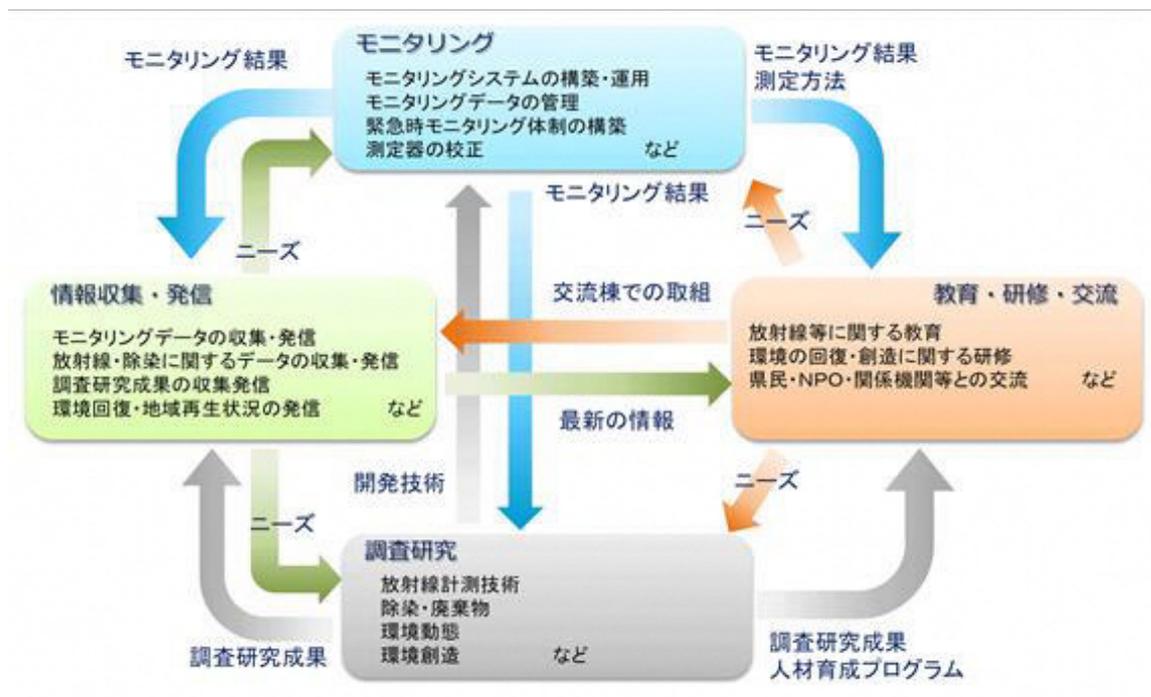
このため、県民ニーズに応えた放射線・除染に関する情報や調査研究成果の整理と分かりやすい情報発信、世界が注目する知見・経験を国際的に共有するための国際専門家会議の開催などの積極的な情報収集・発信を行う。

エ 教育・研修・交流

福島県の環境の現状や放射線に関する情報を伝え、ふくしまの未来を創造する力を育むための教育・研修・交流に取り組む必要がある。このため、県教育委員会が行う児童生徒や教員を対象とした放射線教育や環境教育の充実に向け、必要な支援を行うとともに、大学や他の研究機関等と連携した長期にわたる人材育成に貢献する。

また、交流棟を活用しながら、NPO、地域住民等を広く対象とした交流ネットワークの構築、放射線・除染に関する理解促進の取組を進めるとともに、環境回復・環境創造に関連する事業者への研修等を実施する。

なお、「モニタリング」、「調査研究」、「情報収集・発信」及び「教育・研修・交流」の4つの機能の関連は図のとおりである。



環境創造センターの4つの機能の関わり